

# FFG調査月報

MONTHLY REPORT

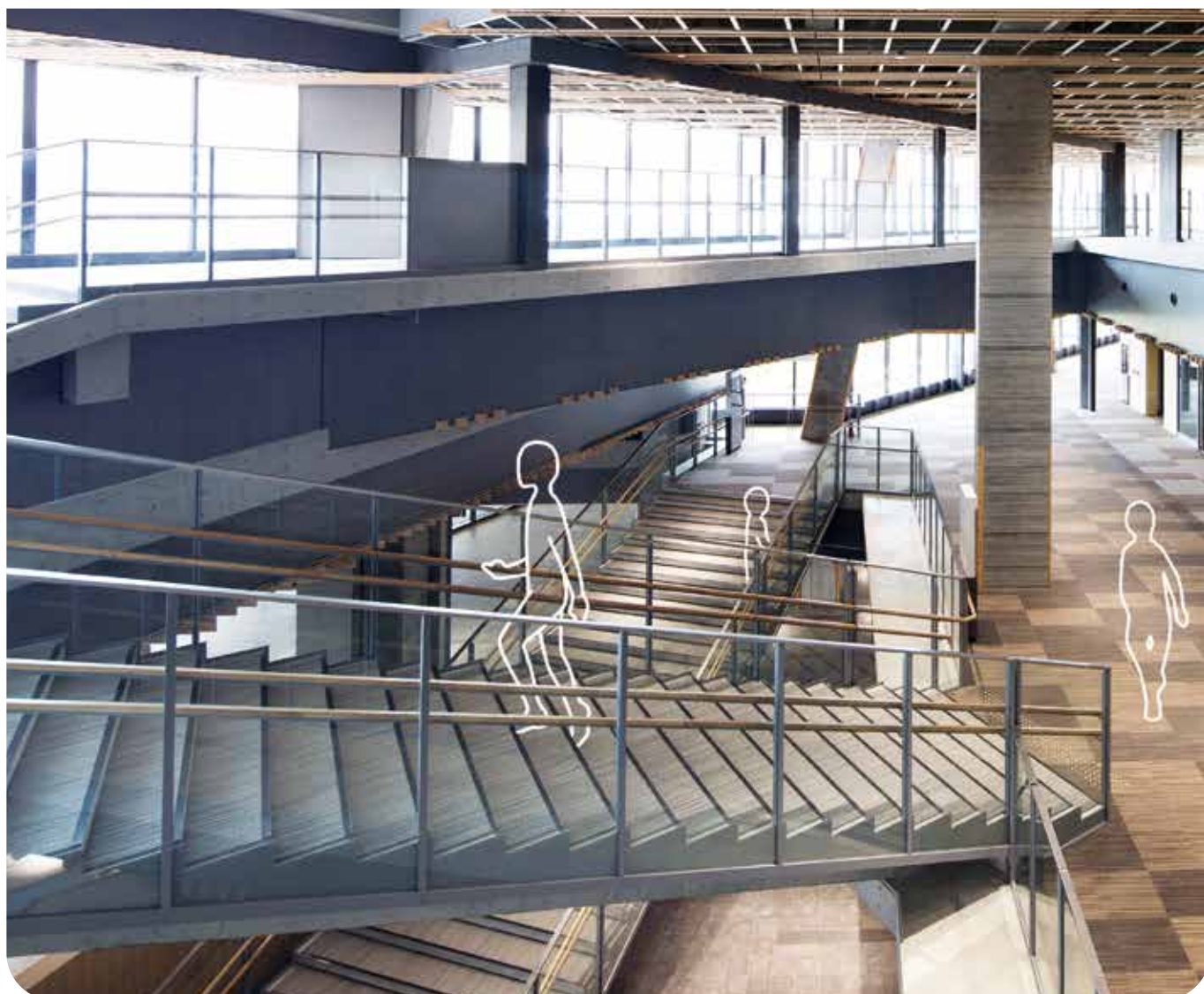
2/3

2020.FEB・MAR  
VOL.126

## Top Interview

板倉冷機工業 株式会社 代表取締役 板倉 勉 氏  
有限会社 荒木洋蘭 代表取締役 荒木 裕一郎 氏  
株式会社 嬉野観光ホテル大正屋 代表取締役社長 山口 保 氏  
料亭 橋本 女将 橋本 由美 氏・長崎検番 会長 梅喜久 氏

福岡銀行  
熊本銀行  
親和銀行  
18bank 十八銀行



懐かしい  
情景を  
探して

Looking for a nostalgic scene

# 開かれた扉、 閉じられた扉



▲南蛮船のモニュメントと平戸港



▲じゃがたら娘像



▲平戸ザビエル記念教会

「平戸」は歴史が詰まった宝石箱だ。遺跡や資料館、教会、お城などを歩いて巡れる小さな港町である。平安時代に大陸との中継地として歴史に登場し、その後、倭寇（明商）の根拠地として貿易で栄えた。大航海時代は極東の終着地「フィランド」の呼び名で世界の注目を浴びる。

1550年のポルトガル船の入港以来、オランダ商館が置かれるなど多くの外国人が暮らす国際色豊かな街だったが、その後の鎖国令で貿易の中心は長崎の出島に移り、華やかな時代は幕を降ろす。

1639年、徳川幕府は平戸のオランダ商館長に「外国人との関係ある婦女子の国外追放」を命じ、約40名がジャガタラ（ジャカルタ）に送られた。二度と戻れぬ故郷を想って差し出された文が現存しており、時を超えて涙を誘う。

（文・阿井川 圭）

# CONTENTS



懐かしい情景を探して 開かれた扉、閉じられた扉

## Top Interview

2 **福岡銀行**  
板倉冷機工業 株式会社 代表取締役  
板倉 勉 氏

8 **熊本銀行**  
有限会社 荒木洋蘭 代表取締役  
荒木 裕一朗 氏

14 **親和銀行**  
株式会社 嬉野観光ホテル大正屋 代表取締役社長  
山口 保 氏

20 **18bank 十八銀行**  
料亭 橋本 女将 長崎検番 会長  
橋本 由美 氏 ・ 梅喜久 氏

26 **地域と共生する FFG**  
長崎県 対馬市

30 **地域と共生する FFG**  
長崎県 新上五島町

34 **寄稿**  
長崎大学FFG  
アントレプレナーシップセンターの紹介

44 **地域とつながるFFG連携プロジェクト**  
福岡県 宗像市

45 **親和アートギャラリー学芸員便り** **NEW**

46 **海外進出最前線**  
ホーチミン・株式会社 綱屋

48 **地銀9行連携レポート** 京都銀行  
伝統産業から文化ビジネスへ

52 **九州の星**  
福岡銀行 高宮支店行員(ピアニスト)  
徳永 哲也

## バックナンバーのお知らせ

「FFG調査月報」のバックナンバーは、ふくおかフィナンシャルグループのホームページにてご覧いただけます。 <https://www.fukuoka-fg.com/>



## 今月の表紙 長崎県新庁舎(長崎県長崎市)

新庁舎は、長崎の「港」の風景と調和した「丘のような庁舎」とすることで、県民が親しみを感じる庁舎として、2018年1月から業務を開始しました。

8階展望施設からは、世界文化遺産の大浦天主堂や旧グラバー住宅のほか、長崎港、稲佐山などが一望でき、新たな観光スポットとして注目されています。また、行政棟1階のエントランスホールは、4階までの吹き抜けの開放的な空間となっています。



 福岡銀行

冷凍冷蔵設備の技術開発と  
期待を超えるサービスで、  
高付加価値製品を提供する。

板倉冷機工業株式会社  
いたくられいきこうぎょう

代表取締役  
板倉 勉氏  
いたくら つとむ

取引店／福岡銀行 七隈支店

#### ■会社概要

創業:1971年／設立:1975年／所在地:福岡市城南区／資本金:  
2,500万円／従業員:40名／事業内容:冷凍冷蔵設備・空調設備・  
厨房設備・店舗設計・商品技術開発・ステンレス製品開発製造／  
事業拠点:(本社)福岡市城南区(工場)福岡市早良区(営業所)鹿児  
島県鹿児島市(研修センター)福岡市早良区



本社前(左から柴戸頭取、板倉社長)

## 辛子明太子ブームが事業の転機に

当社は、「温度」と「湿度」のプロ技術集団として、急速凍結庫・大型冷蔵庫、クリーンルーム設備・空調設備・特許製品製造・販売施工・メンテナンスに至るまでのすべての工程を自社で手掛ける一貫体制を敷き、事業を展開しています。

当社の歴史は、私が低温設備の工事経験をもとに起業した1971年に始まります。起業した当時、私は23歳で、大手メーカーの下請け工事などで細々と生計を立てているような状態が続きました。転機が訪れたのは、1975年に山陽新幹線が博多まで開通した頃のことです。博多の土産物として辛子明太子が人気を博し、大手明太子メーカー様の製造工場の設備工事のお話をいただきました。原料の冷蔵庫だけでなく、当時は木製の作業台で加工作業をされていた為、当時の工場長様から衛生面を考えてステンレスでの製作の要望をいただき、ステンレス製品の製造工場を立ち上げました。

その後、明太子ブームの加速に乗り、他メーカー様ともお取引引きするようになったものの、当時のような下請け業務は利益幅が年々下がっていく状況になっていたのです。そして創業から10年を経過する頃、経理を担当していた妻から「社長、本当に一生懸命、仕事をしてくれているけど、赤字が100万円にまわなってます」と言われ、頭を思いきり殴られたような衝撃を受けました。設備投資に大金を注ぎ、早朝から夜遅くまで働いているのに、なぜ利益が出ないのか。その日は寝ずに考えた結果、それまでの下請け仕事から手を引き、直接受注に切り替える方針を立てました。そのために必要なのは、他社にはない強固な組織をつくること。取引先を開拓していける営業チーム、機動力のある工事チーム、アフターサービスを強化するためのメンテナンスチーム、提案力で受注につなげられる設計チーム。経営的には苦境にあったものの、自社ですべてを賄える一貫体制なしには生き残れないという必死の思いでした。



5



3 1



6



4 2



## 「さすが板倉」の言葉を より多くいただくための活動



板倉社長

「どのようなご要望でも、絶対に『NO』と言わず、すぐに対応する」。お得意先様を増やすために、この言葉をいつも社員に語って聞かせました。1982年に本社事務所を新築し、それから数年後、当社の経営理念の礎を築くこととなる出来事が起こります。お得意先様であった百貨店からショーケースが冷えないと修理依頼を受け、点検の結果、機器の心臓部分である圧縮機の不良が発生しており、福岡には在庫なし、翌日の営業に支障をきたす状態の中、一晩かけて1台在庫がある

大阪から取り寄せ、取替え作業を完了し、オープンに間に合うことができました。お客様からいただいたお礼のFAXに書かれていたのが、「さすが板倉さん」という言葉でした。私は「自分たちの仕事でお客様をこんなに喜ばせることができるのか」と感動し、このことを機に「顧客の満足」「自分がしていただきたいサービスを提供する」というサービス精神の原点を示した品質方針を作成し、現在も全社員で共有しています。

## 目先の利益よりも リピーター顧客を増やすことに注力

1993年に当社が開発した「遠隔監視システム装置」も、「もしも夜間にトラブルが発生したらどうしたらよいか」というお客様からのご要望が発端でした。何かよい解決方法はないものかと思案を重ねていたところ、「エレベーターの監視システムを応用すればできるかも」と考え、早速開発に取り掛かり、試行錯誤の末、冷凍機器の温度異常や機器の異常を



11 9



7



8



10



1.販売実績によりメーカーから表彰多数／2.最新鋭機器を用いて製造／3.4.工場作業風景／5.6.工場見学風景／7.ハイスピード凍結庫 フリーズウィン／8.ハイスピードデフロストシステム／9.冷凍冷蔵設備24時間遠隔監視システム／10.施工例:冷凍・冷蔵ショーケース／11.企業メッセージ



最前列左から大申専務、板倉副社長、板倉社長、柴戸頭取、白浜支店長(福岡銀行)

遠隔監視でいち早く発見する、24時間365日対応のシステムが完成しました。必要時にはサービスエンジニアが出向いて緊急対応しますが、より顧客満足度を上げるために、当社の冷凍冷蔵機器を導入していただいているお客様へはこの遠隔監視システム装置を付けるサービスを提供しています。

私は常日頃、従業員に対して「目先の利益を追ってはいけない」と言い聞かせています。目先の利益よりも大事なのは、お客様に永らくお付き合いいただくこと。そのためには、無償でできるサービスは無償で実施するのが基本で、営業担当者がお得意先様を回った時など、トラブルがあれば営業担当がその場で応急修理を行えるよう、担当者一人ひとりに工具を支給しており、その場合でも修理費はお客様に請求いたしません。こういった施策は、サービス対応が重なって人員不足になった場合に、他部署の人間がある程度業務を担える体制づくりの目的もありますが、人材の有効活用、生産工程スケジュールの徹底管理で生産性を上げて、無償化したサービス分を

補てんするためでもあります。

## 付加価値提供で差別化を図り

### 顧客にとってのオンリーワン企業へ

「常に新しい技術の開発・研鑽と自己啓発」をモットーとする当社では、創意と工夫によって、顧客満足度をさらに高める商品・サービスを提供することこそ、会社が生き残る最良の方策と考えています。

その結果の一例が、2011年に特許を得た、新型霜取り装置採用「ハイスピードデフロストシステム」の開発です。業界初の電動シャッター付きフィンコイル冷却ユニットで、独自設計で冷凍庫内の温度変化を抑えて自動で霜取りを行います。高鮮度と低コストの両方を実現した画期的な製品となりました。

また、2017年にはフリーズウィン「乾燥しない急速凍結庫」を開発し、特許を取得しました。通常の冷凍では冷風を循環することで冷却しますが、この製品では対面式ファンにて商品の微粒を振動させることによって

スピード凍結が実現しました。商品の入庫温度が100℃であっても凍結させることが可能です。さらなる付加価値を提供するために、日々努力を重ね、画期的な機能を開発していきたいと考えています。2019年にはハイスピードデフロストシステムとフリーズウィンの2製品が福岡市トライアル優良商品に認定されました。さらには昨年、三菱電機九州地区冷熱VIP店コンテストにおいて九州支社長賞を11回連続で受賞しています。

2004年にISO9001・2001の認証を取得するとともに、2005年には鹿児島市内に南九州営業所を開設し、地場企業と手を組んだ連携が功を奏して、九州全域で事業を展開できるようになりました。これからさらに社員の資質を高め、企業間競争を勝ち抜く人材を育成していかなければなりません。

常にお客様の立場で物事を考え、お客様の願望実現と課題解決をお手伝いできるよう誠心誠意取り組むことで、他社との差別化を図るとともに、より一層社会に貢献できる企業へ成長することに繋がるものと信じています。

## ■ インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 柴戸 隆成



創業から間もなく50年、冷凍冷蔵設備のプロ集団として、製品開発からメンテナンスまでの一貫体制によって北部九州でトップクラスの施工実績を誇られております。これは『顧客の満足』を大切にされ、目先の利益に捉われずに多くのお客様と信頼関係を築いてこられたからこそと思います。

これからも創意と工夫を重ねながら、お客様の抱える課題の解決に繋がる新しい技術の開発を続けられることを期待しています。



トップに聞く!

 熊本銀行

栽培環境複合制御システムの開発で、  
困難とされてきた胡蝶蘭の  
年間安定出荷を実現。

有限会社 荒木洋蘭

あらかき しょうらん

代表取締役  
荒木 裕一郎 氏

あらかき ゆういちろう

取引店／熊本銀行 三角支店

#### ■会社概要

設立:1994年／所在地:熊本県宇城市／資本金:300万円／従業員:  
30名／事業内容:胡蝶蘭の生産／事業拠点:(本社)熊本県宇城市  
／関連会社:株式会社グランブーケ大多喜(千葉県大多喜町)



ハウス内(左から荒木社長、野村頭取)

## 薔薇の栽培から胡蝶蘭の栽培へ

当社が本社と栽培施設を構える戸<sup>とばせ</sup>馳島は三角町中心部から車で僅か数分の所に位置し、その温暖な気候から霜に悩まされることが少ない花卉<sup>かき</sup>栽培の盛んな地域で、現在では「花の島」「胡蝶蘭の里」とも呼ばれています。

私の祖父が熊本の玉名から戸馳島へ花卉栽培を始めるために移ってきた後、1980年頃から父・文明<sup>ふみあき</sup>が大規模な薔薇の栽培を始めました。そして1985年に、急速に市場で需要が高まっていた洋蘭の人気種である胡蝶蘭へと生産の対象を移行させた後、1994年に有限会社荒木洋蘭を設立し、胡蝶蘭の切り花栽培を本格化させてまいりました。

東京農業大学を卒業した私が、地元に戻って事業に参画したのは1999年のことです。そこから規模拡大のために設備投資を続け、2005年には、胡蝶蘭の切り花から鉢物へと事業を移行しました。これは東南アジア

産の輸入物の切り花が大量に国内市場で回り始めたのがきっかけで、輸送コストと鮮度の面で海外の業者に対して優位性を保てる鉢物に今後の可能性を見出したためです。

## 5年先、10年先を見据えた経営

大規模生産に踏み切ったことで、当社は、出荷量、年商においては西日本トップクラスの実績を挙げるようになりました。しかし、切り花生産と比較して鉢物は手間が掛かるため、人件費をはじめとするコストがどうしても膨らんでしまいます。しかも、事業を営むうえで必要な資材費や人件費、輸送費などは高騰が続いています。そのため、年商とともに利益も上げていくには、栽培設備のランニングコストをいかに抑えるかが鍵となるのです。暖房設備で例えると、栽培ハウス内の温度を保つために暖房設備が必要ですが、ガスヒートポンプを導入することでランニングコストの削減を可能



2 1



3





荒木社長

にしました。このガスヒートポンプはヤンマー株式会社の全面的な協力をいただき、私の目指す動作条件が実現できるよう特別な設定変更を行い、現在プロトタイプ4台が稼働中です。導入時にイニシャルコストは掛かりますが、長い目で見れば利益に貢献してくれる投資となることでしょう。私は経営において、常に5年後、10年後を意識して動くことを心掛けています。

輸送費に関しても、トラックの高速長距離輸送による花卉へのストレスを考慮して、いち

早くフェリー輸送の導入を決めました。商品の品質を担保する手段として取り入れたのが理由でしたが、結果的に、現在ではドライバーの働き方改革の施策としてフェリー輸送の需要が急激に高まっているため、私の判断が遅れていれば、フェリー輸送への移行は困難になっていたかもしれません。

### 共同事業で日本最大級の

### 胡蝶蘭栽培施設を建設

胡蝶蘭は、洋蘭の中では比較的花が長持ちするうえ、開花時期の調整が容易とされ、出荷計画を立てやすいということが、生産者にとつてのメリットとして挙げられます。一方で、一年を通じて安定的に出荷量を維持できるか、とても難しい面があります。ランニングコストの問題に加えて、いかに栽培環境を一定に保つか。それが、当社にとって大きな課題でありました。



8 6



4



7



5

1.2.ハウス内の様子／3.ヤンマー株式会社の協力のもと複雑な動作条件が設定されたガスヒートポンプユニット。この装置でハウス内を理想的な育成環境にコントロールする／4.ハウスを見学／5.6.胡蝶蘭の出荷準備／7.富士通株式会社との共同事業で日本最大級の胡蝶蘭栽培施設を千葉県内に建設／8.企業メッセージ



最前列左4番目から荒木社長、野村頭取、三森支店長（熊本銀行）

その課題解決の取り組みとして着手したのが、2016年に富士通株式会社と共同出資した「株式会社 グランブーケ大多喜」です。千葉県大多喜町に設置した、1.3 haの広さを有する日本最大級の胡蝶蘭栽培施設で、ICTを活用し、施設内の温度・湿度・採光を専用の管理システムで徹底的にコントロールして生育環境を一定にするという、胡蝶蘭の栽培を手掛ける上で避けては通れない課題に、富士通の全面的な協力を得てチャレンジする機会に恵まれました。東京の花弁流通拠点である大田市場までアクアライン経由で1時間程度の好立地のため、鮮度を保ちながら市場へスピーディーに出荷でき関東圏内の同業者の中で最も市場に早く届けられるインセンティブを有しています。施設の形状や素材、システムなど、海外の巨大栽培施設を参考にしながら、国内の一般的な栽培施設にはないアイデアを詰め込みました。富士通とともに試行錯誤を繰り返し、複合的に環境を制御するシス

テムの開発に全力を傾け、3年を掛けてようやく私の目指す栽培環境を実現できたところ。現在では、出荷時期に合わせた室温や湿度などの微調整も簡単な操作でできるようにまできています。

### 勘と経験値のデータ化で

### 農家の事業承継問題対策へ

栽培環境の複合制御システムを作り上げる一番の目的は、最新鋭の設備・施設を実現したかったというよりも、自社の商品を違う地域の生産者に同品質で作ってもらう仕組みを構築したかったからです。自社ブランドが、世界のどの地域でも生産可能になれば、こんなに嬉しいことはありません。

それから、こうしたシステムの開発には、もうひとつ大きな意義があると考えています。それは、全国各地ですます深刻になっている農家の後継者不足と事業承継の問題に歯

止めをかける対策としての有効性です。私たちは、システム開発のために、温度や湿度などの環境条件、病気や害虫などの生育トラブルに関するすべての情報を長期間にわたり数値として記録しデータ化しました。農家の事業承継が難しいのは、従事者個人が身に付けた「勘と経験値」を引き継ぐことが困難だからです。その「勘と経験値」をできる限りデータ化することによって、基礎さえ理解できていれば事業の承継は容易になるはず。す。

今後は、蓄積したデータをどう活用するかが重要な時代になっていくものと捉えています。そのためには、データを正しく分析して活用できる人材が必要です。これまでの貴重な経験を踏まえ、胡蝶蘭生産者としての軸足は残しつつ、将来的にはアグリビジネスのプロデュースといった事業支援活動や、最先端の遺伝子操作技術を応用した、耐性の強い品種の研究開発に関わっていきたいと考えています。

## ■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 野村 俊巳

近年、商慣習としてお祝いの意味を込めて贈られることが多い胡蝶蘭ですが、一年中、高品質な商品を安定して市場に供給することはとても難しいと言われています。荒木社長はその困難に立ち向かい、西日本最大規模で高品質な胡蝶蘭を生産されています。

また、栽培施設のエネルギーコストの低減や栽培環境の複合制御システムの開発に積極的に取り組み、日本最大級の最先端設備を有する施設が完成されました。生産者として、そして事業者として、今後も様々な課題に挑戦し続けられることを願っています。





 親和銀行

四季の風景に溶け込む美肌の湯で  
「和」と「おもてなし」の心が息づく。

株式会社

うれしの  
嬉野観光ホテル大正屋

代表取締役社長

やまぐち

山口 保氏

たもつ

取引店／親和銀行 嬉野支店  
福岡銀行 佐賀支店

#### ■会社概要

創業:1925年／設立:1954年／所在地:佐賀県嬉野市／資本金:  
1,000万円／従業員:217名／事業内容:旅館や温泉などの宿泊業



『大正屋』前(左から山口社長、吉澤頭取)

## 大正14年に5室で開業 先代社長が夢を叶えるため奮闘

当旅館は悠久の歴史を紡ぐ名湯 嬉野温泉で、95年にわたって日本の伝統文化を大切に守る「大正屋」、椎葉川の清流に寄りそう「椎葉山荘」、風情あふれる源湯の宿「湯宿清流」の3つの旅館を営み、お客様に和の心をお伝えしています。

嬉野温泉は「肥前風土記」に「東の辺りに湯の泉ありて能く人の病を癒す」という記述があり、昔から温泉地として知られ、神功皇后が負傷した兵士を入浴させたところ、たちまち傷が癒えたため「あな、うれしの」と喜ばれたことが地名の起源という伝説があります。

江戸期には長崎街道の宿場町として賑わい、多くの文献に登場したことで、日本三大美肌の湯として有名になりました。

1925年、山口締一・レツ夫妻が旅館に内湯がなく温泉水を引いていた時代に、自家用源泉の掘削に成功し、内湯の宿「旅館大正屋」を創業します。客室の5部屋は湯治客や商人の常宿として評判になりました。

その後、夫妻の長男として産まれた政夫が1941年、私の姉英子と結婚し、両親から

旅館を継ぎました。しかし、政夫は太平洋戦争に出征し、英子はその間一人で宿を切り盛りします。終戦後、政夫と英子は二人三脚で営業に情熱を傾けていきました。当時としては珍しいダンスホールを備え、さらに庭園やテラスを眺める展望大浴場、40畳の大広間、客室7室を備えた別館の建設計画に着手します。しかし、政夫は1951年、完成を待たずに37歳で早逝します。英子は悲しみに耐えながらも亡夫の遺志を引き継ぎ、生前語り合っていた2人の夢の実現に向けて、旅館の拡大を目指したそうです。

### 皆生温泉で修業して成長

#### 吉村先生との運命の出会い

英子社長は10人兄弟姉妹の長女で、私は22歳離れた末弟です。忘れもしません、大学2年生の時、父から「大正屋の後継ぎはお前しかない」と言われ、卒業後の1964年に入社しました。入社から3年後、視野を広げようと思い、知り合いのオーナーに面会し、鳥取県の皆生温泉にあるホテルで2年間お世話になりました。そのオーナーから学んだ効率的な経営術は今でも生かされています。





山口社長

その後、私が大正屋に戻り、英子社長と京都の老舗「俵屋新館」と天橋立の「文珠荘」に宿泊したとき、伝統の美を生かした心地よさに感銘を受け、どちらも吉村順三先生（※）の設計であることを知りました。「私たちのもてなしを形にしてくださいのは吉村先生しかない」とすぐに新館設計をお願いしましたが、何度も断られ2年余り経ったある日「私は建築だけでなく家具から照明まで全部見なければ気が済まないからたくさんはできないですよ」と言われ、それから静かに「お手伝いしましょう」と言っておりました。

こうして大正屋の大プロジェクトが始まり、第一期工事として1973年に地下1階地上7階の本館が完成、その後、第二期の別館

と離れ棟、第三期の大浴場「四季の湯」、第四期の新館へと続きます。

吉村先生からは「手入れだけはしっかりとしてほしい」と言われ、絨毯の小さな汚れまで見逃さないよう先生の教えを忠実に守り続けています。

（※）吉村順三（故人）：日本の建築家の重鎮。日本芸術院会員で奈良国立博物館、皇居新宮殿などを設計した。

## 日本旅館初のシステムを開発 画期的な事務効率化へ着手

英子社長は時代の先を読む優れた才能を持ち、自身にも厳しい人でしたが、私にも厳しく、ほめられたことはありません。

1994年新たに椎葉山荘に着工しますが、私は経営の効率を考え「各部屋に食事を運ぶことをしない」ことを主張しましたが、和のおもてなしを大切にしたい英子社長から猛反対されました。

実は二人で以前より経営効率の向上に取り組んで、日本旅館としては初のオリジナルトータルシステムを開発導入し、予約受付から始まる一連の事務作業を管理することで、全館の情報を共有化し、過去の実績から予約



1.「椎葉山荘」外観／2.「椎葉山荘」露天風呂・しいばの湯／3.「湯宿清流」外観／4.「湯宿清流」露天風呂付大浴場・紅梅の湯／5.「大正屋」離れ特別室／6.「大正屋」大浴場・滝の湯／7.8.見学風景／9.「大正屋」料理イメージ／10.嬉野温泉湯どうふ／11.お宿メッセージ



前列左2番目から香月一昭常務、山口千鶴取締役、山口雅子専務、山口保社長、吉澤頭取、原田支店長(親和銀行)、山口剛副社長

を予測するなど適切な営業管理体制とお客様サービス向上を行ってまいりました。

最終的には私の熱意と英子社長自身も効率的な経営の重要性を理解していたので合意してもらい、任せてもらうことになりました。

### 嬉野温泉湯どうふを 地域の特産品へ

江戸期から好まれていた「嬉野温泉湯どうふ」の商品開発には苦労しました。普通、豆腐は煮ると堅くなりますが、嬉野温泉水で煮ると、とろけるような舌触りになります。

私は温泉湯どうふを嬉野の名物にしたいと考えましたが、温泉水には飲用利用の基準があり、商品として販売することは禁じられていました。しかし、県に何度も働きかけ、最後は県知事に直訴し、健康上の問題がないことが確認されて、ようやく製造が認められました。

特徴である「とろけるような舌触り」を解明するために、全国各地から温泉水を集めて温泉水の成分との関係を調べ、さまざまな実験を繰り返し、原因を突き止め、「とろける湯どうふ」「かご盛りどうふ」を商品化することができました。

自社の工場で嬉野産大豆を使用し、濃度13%以上の濃い豆乳で風味豊かな味わいに仕上げた温泉湯どうふは、胃腸に優しい温泉水と栄養満点の豆腐とが見事に融合した健康食として、その食感と味わいはやみつきになります。商標も取得しましたが、嬉野温泉全体の特産品として育てるためには独占してはならないと考え、製法、商標を公開しました。これによりどの旅館でも同じ商標で販売でき、嬉野名物として全国に知れ渡りました。

### 温泉と食事でおもてなし

#### 先代社長の教えを受け継ぎ

#### 新たな時代へ「和の心」を繋ぐ

当旅館は自社で、95度の高熱温泉を1日に500トンも湧出する複数の源泉を持ち、大正屋、椎葉山荘、湯宿清流には5つの大浴場があるため、三宿五つの大浴場めぐりを楽しみながら、肌が滑らかになっていきます。

また、食に関してはおもてなしの原点と考えています。日々、郷土の旬の食材を厳選して調理し、有田焼など焼き物の里にふさわしい器で食卓にお届けしています。

旅館経営に生涯を捧げた英子社長は亡く

なる前日まで働き、2019年10月、100歳の天寿を全うしました。私たちへの教えは数えきれませんが、最も大きなものは「和の心」であり、日本人が営んできた「衣食住」に関わる様式そのものを提供する「業」です。

私たちは大正期から培ったおもてなしの業によって、いつの時代にも変わることがない和の心を、時代の変化に合わせて形にしています。

これからおもてなしによる顧客満足度を向上させるためには、IT技術の活用も必要ですが、実際の旅館を支えるのは従業員です。心からのおもてなしを通してお客様に癒しの場を提供するために、思いやりの心と共に日本の礼法から生まれる美しさをさらに大切にしていきたいと思っています。

サービスの質の向上と経営の効率化を両立させることは難しい面もありますが、一人一人が柔軟な発想を持って仕事へ取り組みことで、新しい時代を切り開くことができると信じています。

英子社長は「当たり前前」のことを当たり前前「やる」という言葉を残しましたが、実はそれが最も難しいことです。お客様に和の心を伝え、お客様との信頼の絆を深めるために、これからも「当たり前前」を求め続けます。

## ■ インタビューを終えて

親和銀行 取締役頭取 吉澤 俊介



「美肌の湯」として知られる嬉野温泉で95年前に創業され、たゆまぬ努力と時代の先を読む先見性によって強固な経営基盤を構築されました。

「大正屋」「椎葉山荘」「湯宿清流」はそれぞれ特色を生かしながら和の心が息づき、自ら商品化された温泉湯どうふはお土産品として喜ばれています。これからも和の心を大切にし、歴史をつくる旅館として発展されることを期待しています。



18bank 十八銀行

長崎検番と手を携え、  
長崎が誇る伝統文化を  
三代目女将として守り続ける。

料亭 橋本

女将

橋本 由美氏

長崎検番

会長

梅喜久氏

取引店／十八銀行 思案橋支店

#### ■会社概要

料亭 橋本

創業:1942年／設立:1952年

所在地:長崎県長崎市／事業内容:料亭

長崎検番

創業:1909年／設立:1972年

所在地:長崎県長崎市／事業内容:検番



「料亭 橋本」庭園（左から梅喜久会長、橋本女将、森頭取）

## 旅館から料亭へ カルルスと呼ばれた 桜の名所で創業

料亭橋本は、長崎のカルルスと呼ばれた地で1942年に創業した旅館が前身で、終戦後にアメリカの進駐軍に接收され、返還後の1952年に料亭として営業を開始しました。

当料亭は、長崎市電の新中川電停から徒歩3分と繁華街から少し離れた場所にあり、閑静な佇まいと広い庭園で四季折々の情緒ある景観が眺められることが大きな特色です。料亭があるこの場所は、その昔、彦山を背景に絶景が楽しめる桜の名所でした。1887年に当時の県知事が数千本の桜を植樹し、長崎市民の憩いの場としてにぎわっていたといいます。また当時、ここを訪れたドイツ人医師が、チエコとドイツの国境にある温泉地カルルスバードに風景が似ているところからこの地を「カルルス」と名付け、当地に咲く桜は「カルルス桜」と呼ばれました。料亭の庭に残る桜の古木もカルルス桜で、その時代の面影を残すものとして知られています。

## 江戸時代から続く 長崎花柳界の伝統を今に伝える

長崎検番は1909年に創立された丸山東検番が前身であり、長崎市電の崇福寺電停から丸山公園に向かつて徒歩5分の花街と呼ばれていた地にあります。

長崎花柳界の歴史は古く、元々は1639年頃の江戸時代に丸山遊郭が誕生したのが始まりです。明治時代に入り検番組織が確立され、昭和初期には最盛期を迎え7つの検番が存在し、数百人の芸妓が在籍していました。

しかし、時代の流れにより、検番組織が減少、1949年には長崎を代表する「丸山東検番」と「長崎町検番」が合併し、「長崎芸能会」を発足、その後、1977年に「長崎検番」へ改称を行い、芸妓の手配・送迎・花代の精算を行う、現在の事務所のかたちとなりました。

組織のかたちは変わっても、検番としての役目は変わりません。長崎検番は「立方<sup>たちかた</sup>」と呼ばれる踊りを担当する芸妓と「地方<sup>じかた</sup>」と呼ばれる唄、三味線、囃子<sup>はやし</sup>を担当する芸妓に分かれており、「民謡 ぶらぶら節」などの唄に合わせた踊りを披露するという伝統を今もなお守り続けています。



5



3



1



6



4



2



梅喜久会長



橋本女将

## 「長崎の料亭文化を絶やすな！」 長崎検番との新たな試み

当料亭は日本の高度経済成長と、その波に歯止めをかけた石油危機、バブル景気、その後の景気後退と、移りゆく時代のなかで料亭を

切り盛りしていくという点では、さまざまな経験をしましたが、その都度、地元のお客様や地元企業から支えられ、料亭文化を今に残すに至っています。

しかし、得意先を接待するために料亭を用いるというビジネス界の商慣習が薄れ、廃業を決める老舗料亭が出てくるなか、私自身が女将として「なんとか長崎の料亭文化を残さなければ」という思いがあり、2008年に「桜まつり」と銘打った新たな催しを始めました。長崎検番に声をかけ、お食事をお出しする大広間で芸妓総出の季節に応じた特別な余興を披露してもらい、お客様にはその前にも、庭を茶会の待合のように使っていただいて、桜の眺めを楽しんでいただくという趣向です。当初は、そのような試みが受け入れられるものか心配しましたが、私どもの予想を超えて100名以上ものお客様にお越しいただき、ご好評をいただいたおかげで、以降毎年続けています。また、「大広間から見える萩がとても綺麗」というお客様からの声があつたので、第1回目の「桜まつり」の2年後には秋の「萩まつり」も催すようになり、ありがたいことにこちらも毎年の恒例行事となっておりま

す。この催しは料亭と検番両方の伝統文化を



11 9



7



8



1.「料亭 橋本」庭園内のカルルス桜／2.「桜まつり」の様子／3.対談風景／4.料亭内を見学／5.卓袱料理／6.「料亭 橋本」からの景色／7.「長崎検番」外観／8.9.10.長崎検番のお稽古風景／11.企業メッセージ

10





左から勝丸氏、梅喜久会長、橋本女将、森頭取、松藤支店長(十八銀行)、菅羽氏

守るという側面があるため、利益は見込んでいませんが、「おいしかった」「楽しかった」「また来ます」といった言葉をいつも増していただけなので、これほどうれしいことはありません。今後とも伝統文化を守るために、これらの催しを続けていきたいと思っています。

### 郷土の伝統が息づく卓袱料理と 創意工夫の会席料理でもてなし

当料亭でご提供する料理は、長崎の郷土料理である卓袱料理と、独自の趣向を凝らした会席料理です。卓袱料理は、鯖碗(吸い物)に始まり梅碗(しるこ)で終わる一連のコース料理で、ひとつの円卓を囲むようにして器に盛った料理を小皿に取り分けながら食事をするため、会席膳のように格式張ったところがないのが特徴です。一方の会席料理は、献立に決まり事の多い卓袱料理にくらべて、対馬穴子、クエ、長崎和牛といった地元の豊富な食材を季節に合わせて用い、何度も足を運んでくださるお客様が飽きのこないよう創意工夫を凝らした料理に仕上げることを心がけています。おすすめ料理の一つ、初代料理長の酒井智が創作した「あじさい揚げ」は、海老入りの

クリームコロッケにサイの目切りした食パンを花びらのようにあしらって、あじさいに見立てた一品。あじさいは長崎市の花とされていることから、喜ばれるお客様も多くいらつしゃいます。お客様からはよく「会席は京風ですか」とご質問をいただくのですが、当料亭の会席料理は「橋本風」なのです。

長崎にしかない卓袱料理もまた、私どもにとつては後世に伝えていきたい伝統文化です。数年前に地元の調理師専門学校からインターンシップのような形で生徒さんの受け入れを始めました。調理場での実習終了時には卓袱料理を一人一人にふるまって、若い人たちに郷土文化のよさを少しでも知ってもらう取り組みを続けています。

### 「ケ・セラ・セラ」の精神で

### 「おもやい」の活動に取り組む

私が橋本家へ嫁ぎ、若女将となったのは1975年のことで、それからまもなく45年が経ちます。わが子が生まれた折に「代々子孫繁栄」の縁起物とされる橙だいだいを庭の隅に植えたのが、今ではすっかり大きくなって場所を移すまでになったのですから、月日の流れを感じず

にはいられません。お座敷文化や料亭料理から人々の気持ちに離れていきがちな昨今ですが、三代目女将として微力ながらこれまでの経験を活かし、料亭のもつ文化を次の世代に受け継いでいきたいと願っています。もちろん、若い人たちには若い人たちの考え方や価値観があります。こちらの考えを一方的に押しつけるのではなく、若い世代の感性を取り入れる寛容さが必要です。また、郷土の伝統を守るといつても、個人の力だけでできるものでもありません。卓袱料理のように、皆で一つの物を分け合うことを、当地では「おもやい」といいますが、郷土文化の魅力も「おもやい」によつて、地域のみなさんと分け合いながら心をつなぐことが肝心だと思います。

時は、止まることなく、前へ前へと進んでいくとするもの。だから、私は、今できることに精一杯力を注ぐようにしています。うまくいかない時には、母がよく口ずさんでいた『ケ・セラ・セラ』の歌が、心を元気づけるおまじないです。歌詞の「なるようになるわ」は、「何もせずともなるようになる」ではなく、「精一杯できることをしたら悔いは残らない」という意味だと捉え、これからも地域の皆様と前へ進んでいきたいと思っています。

## ■ インタビューを終えて

十八銀行 取締役頭取 森 拓二郎

長崎が世界に誇る卓袱料理の有名な老舗が一つ、また一つと、のれんを下ろし消えてゆき、複数あった検番組組織も統廃合により長崎内で唯一となるなか、「桜まつり」「萩まつり」の例年開催など、料亭橋本様と長崎検査様は協力体制を敷きつつ、積極的に郷土文化を広く伝える活動に取り組んでおられます。

これからも協力体制による様々な取り組みと、伝統文化の火を灯し続ける「おもやい」の活動を楽しみにしています。





長崎県

T S U S H I M A C I T Y

# 対馬市

「古代から続く国防の最前線  
歴史と自然の息づく国境の島」

長崎県  
対馬市



白嶽



ツシマヤマネコ (対馬野生生物保護センター提供)



対州馬

九州の最北端に位置し、玄界灘に浮かぶ対馬。福岡・博多港、対馬・厳原港の航路で約132km、朝鮮半島とは最短距離約50kmの場所に位置し、古来よりユーラシア大陸と日本列島の文物が行交い、我が国にとっての文化的・経済的な窓口として存在してきました。

対馬島は南北約82km、東西約18kmと細長く、対馬島のほか108つの属島で構成される本市は、総面積の89%が山林で占め、四方を海に囲まれています。総面積は約708km<sup>2</sup>と東京都23区より広く、対馬島は、日本の離島のなかで3番目に、大きな有人離島です。



金田城跡



城山から望む

## 注目を集める「最強の城」金田城

金田城（かねだじょう、かなたのき）は、対馬島の中央部、浅茅湾に面してそびえる城山に築造された古代山城で国の特別史跡に指定されています。

日本書紀によると663年、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた倭国は、大宰府の防備のために対馬国や吉岐国・筑紫国に烽（とぶひ、のろし台のこと）や防人を配備し、筑紫国（現在の太宰府市・大野城市・春日市）には水城を築造しました。そして667年、その防備策の一環として、この対馬に金田城が築造されました。築造主は天智天皇、歴史的には中大兄皇子の方がよく知られていますが、彼の治世において築造されました。

その後の経緯は不明ですが、防人制度は廃れ、8世紀には既に廃城となったようです。

1901年に、明治政府によって山上に砲台が構築されることとなります。つまり1200年を超えて

も、日本にとって地政学的に対馬の存在価値は変わらなかったこととなります。

さて金田城の遺構は、667年の築造から1353年が経った現在においても、しっかりと残されています。国内の多くの山城の城壁が土塁で作られている中、ほぼ全てが石塁で構築されているため、総延長2.2kmに及ぶその城壁が今なお現存しているのです。また明治期に作られた山上にある砲台跡はもとより、その場所に至るまでの道のりも軍道として整備されており、今は登山道として活用されています。そんな金田城が今、国内の様々な方々からの熱い眼差しを集めています。

きっかけの一つは2017年に公益財団法人日本城郭協会が定めた「続・日本100名城」として取り上げられたことです。この「続・日本100名城」という企画は、関連書籍によるスタンプラリーを伴って

おり、このスタンプを求めて全国の城好きの猛者達が、全国の城を巡っております。その盛り上がりは、一昨年、「お城EXPO」において地元の観光物産協会が出展したところ、配布物を多めに用意していたはずが、皆様からの熱い「攻城」のもと、ものの2〜3時間で無くなってしまうほどでした。



お城EXPO落城後

そして、もう一つは、「アングルモア元寇合戦記」という作品です。「アングルモア元寇合戦記」は2013年に掲載が開始され、現在は「コミックウォーカー」という無料コミックポータルサイトに連載中の作品で、その名のとおり元寇をテーマに描かれた漫画家、たかぎ七彦先生の作品です。こちらの作品は、1274年の文永の役の対馬を舞台として、朽井迅三郎という架

空の人物と宗助国などの実在の人物が蒙古・高麗軍を迎え撃つ、という内容ですが、戦いの舞台の中心がこの金田城となっています。実際には元寇の際に、金田城が戦場となつたという記録は無いのですが、2018年7月にはテレビアニメ化され、原作者のたかぎ先生、発行元の株式会社KADOKAWA（以下KADOKAWA）様、アニメ制作スタッフの方々、一般社団

法人アニメツーリズム協会様の強い協力を得て対馬において先行上映会やモニターツアーなども実施された結果、マンガやアニメのファンが対馬に来島し、その多くが金田城を訪れることになりました。なおイベントの際にはKADOKAWA会長兼アニメツーリズム協会理事長である角川歴彦様も来島され、対馬のアニメツーリズムについてご覧いただきました。ちなみにアニメ第1話には比田勝尚喜市長がスタッフのご厚意により声の出演をしています。

またそういった取り組みへの評価もあり、対馬市はアニメツーリズム協会による「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」の一つとしても選定され、さらに来島者を増やすことになりました。

そして最近もとても注目を集めたものが、テレビ番組「あなたも絶対行きたくなる！日本最強の城スペシャル第4弾」（2019年9月16日放送・NHK）において、見事「日本最強の城」として選ばれたことです。高橋英樹さんや春風亭昇太さんが出演する同番組は、城好きか

らの関心が高く、第1弾の高取城、第2弾の松江城、第3弾の岡城に続く、栄誉を得ました。数々の素晴らしいお城が紹介されるなか、最後に最強の城として選ばれたときには、見ていた市の関係者から驚きの声が出てました。

対馬には、お客様をもてなすための「食」も豊富です。日本のソバの原種に近いといわれるソバの実を使った「対州そば」、国内でもなかなかお目にかかれない穴子のお造りやプ



対州そば



「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」アニメ聖地認定プレート贈呈時



角川歴彦会長と市長



市長アフレコ



穴子料理



ノドグロ刺身

ロテニスプレイヤーの錦織圭選手の好物として注目されるようになったノドグロなど、対馬ならではのグルメが皆様をお迎えしています。

春は新芽が芽吹き、対馬がもつとも美しい季節になります。是非、この春は美しい自然と古代から続く悠久の歴史ロマンに浸り、さらに美味しいお食事を堪能しに対馬にお越しください。

## 十八銀行 地域振興部から

対馬でしかとれない「穴子」、ソウルフード「とんちゃん※」、対馬の原木で育てられた「原木しいたけ」など、対馬に行かないと味わうことができない製品の試食販売会を行いました。

また、隣には観光PRブースを設置し、街ゆく方々800名に観光パンフレット

国境の島である対馬は、長崎県でありながら、地理的、経済的、交通環境の全てにおいて福岡との関わりが深い島です。

そのようなことから、現在、対馬市では福岡からの観光客誘致に力を入れています。

今回、親和銀行と連携し、11月5・6日の2日間、ふくざん本店広場での対馬物産展を開催しました。

多くの方に「必ず対馬に行きます」との声をいただき、大変盛り上がりました。

FFGでは今後も各自治体との連携を強化し、地域課題の解決に取り組んでまいります。

## ふくざん本店広場で「対馬物産展」を開催



運営担当の親和銀行、十八銀行スタッフ



テレビ取材を受ける「ツシマヤマネコ しまひこ」

※)とんちゃん  
甘辛の焼肉ダレに漬け込んだ豚肉を、焼いた料理のこと



「対馬物産展」の販売風景



長崎県

SHINKAMIGOTO TOWN

# 新上五島町

「島ならではの歴史と風土に育まれた 祈りと癒しの島」



長崎県

新上五島町

新上五島町は、九州の西端、長崎県五島列島の北部に位置し、中通島と若松島を中心とする7つの有人島と60の無人島から構成され、通称「上五島」と呼ばれています。上五島を上空から見ると十字架の形をしていること、遣唐使が唐へ渡る際の寄港地として、この地で航海安全を祈願したこと、キリスト教禁教による激しい弾圧のなかで潜伏キリシタンが信仰を続けてきたという歴史から「祈りの島」と呼ばれています。

少子高齢化の影響による人口減少や離島ゆへの地理的制約などの課題がありますが、『つばき香り豊かな海と歴史文化を育む 自立するしま』の実現に向け、取り組みを進めていきます。



矢堅目の夕景



山王山展望所からの風景



絶景の穴場スポット「ハマンナ」



大曾教会

## 祈りの島 上五島

2018年7月、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されました。新上五島町では「頭ヶ島の集落」が構成資産となっています。

「頭ヶ島の集落」にたたずむ頭ヶ島天主堂は、250年にも及ぶキリシタン禁教令下の激しい弾圧に耐

えた信者たちが、信仰を守り続けてきた人々のあかしとして浄財を捧げて造られました。本町には29の教会が引き継がれ、信仰を今も伝えていきます。

五島列島は中国大陸へ向かう遣唐使の風待・避難港としての役目を果たしました。山王山は804年に伝教大師最澄が遣唐使として航海安全を祈願し、翌805年に無事帰国を果たすと、その御礼として天



頭ヶ島天主堂



青砂ヶ浦天主堂（国指定重要文化財）



開山1200年記念式典に合わせて建てられた伝教大師最澄の銅像



「祈りの龍馬像」は亀山社中が所有していた帆船が嵐に遭い、若くして亡くなった志士たちの冥福を祈っている

## 伝統の味

台山に祀られていた山王神を勧請したと伝えられています。2019年10月には、開山1200年記念式典が開催されました。2015年4月に日本遺産として文化庁より認定された「国境の島 壱岐・対馬・五島」古代からの架け橋」の構成文化財のひとつとなっています。

遣唐使の寄港地であった上五島には、古くからさまざまな大陸文化がもたらされ、麺文化も中国から伝わったとされています。長い時を経て上五島に根付き、独自に発展して「五島手延うどん」となりました。島の中で手作業にて作られていたことから「幻のうどん」と呼ばれ、「日本三大うどん」のひとつに数えられています。

島で採れた椿油が表面に塗られ、ツルツルとした喉越し。細麺ですがコシが強く、麺が伸びにくいいため、島では「地獄炊き」にて親しまれています。



手作業にて作られる五島うどん。画像は工程の1つ「八掛け」の様子



地獄炊き

豊饒な海に囲まれた本町では、名産のあご（飛魚）や新鮮な魚介を活かしたこだわりの水産加工品が数多く作られています。また、若松瀬戸は西海国立公園に指定されており、外洋からのきれいな海水が通り抜けています。この美しい環境でみじよがつて（かわいがつて）育てられたぶりがやまぐろは上品な身に良質



あご焼き



町内では「養殖まぐろフェア」も開催されます

お祝いの席などで振舞われる「紀寿し」

な脂ののった「うま味」を堪能することができます。  
ほかに、かんころ（さつまいもをスライスしてゆがき、干したものを原料にした）「かんころ餅」や鯨食文化、「紀寿し」などの歴史ある郷土料理が、今もなお大切に伝えられています。



椿



ノルディックウォーキング

●**春**  
五島列島 椿ロード・ノルディックウォーキング  
やぶ椿の自生地として有名な上五島。蒼い海と赤く咲き誇る椿を眺めながら、北欧発祥のノルディックウォーキングを体験しませんか。

春夏秋冬を感じるイベントが開催されています。上五島の四季を味わいに、ぜひお越しください！

## 四季を味わう



蛤浜で遊ばデー

●**夏**  
蛤浜で遊ばデー  
どこまでも続く遠浅の白い砂浜・蛤浜で開催される海開きイベント。バナボートやスイカ割りなどの多彩なイベントで夏の到来を楽しもう！



水辺を飛び交うホテル

●**ほたるのふるさと相河川**  
遣唐使船の風待港として歴史深い相河地区は、多くのホタルが鑑賞できます。ホタルたちが作り出す光の芸術をお楽しみください。



信徒手作りの教会イルミネーションは、2012年に「日本夜景遺産」に認定されました

●**冬**  
チャーチウィーク  
in 上五島 教会コンサート  
会場となる教会を変えながら、6夜連続でクラシック演奏を堪能できます。イルミネーションで輝く教会に響き渡る管弦楽の音色が、幻想的な空間を作り出します。



ウォーク&クルーズ

●**秋**  
上五島教会めぐり  
ウォーク&クルーズ  
秋空の下、上五島の海・山・風を感じながら、町内の教会などをめぐります。ウォーキングとクルージングで上五島を丸ごと味わえます。



寄稿

# 長崎大学FFG アントレプレナーシップセンターの紹介

長崎大学FFGアントレプレナーシップセンター  
センター長・教授 山下 淳司（十八銀行 営業統括部付 出向）

## はじめに

現在の長崎は、九州新幹線長崎ルート開業に向けた長崎駅前や株式会社ジャパネットホールディングスによるサッカースタジアム構想など大型開発が活発化する一方で、長崎市の人口減少が2年連続で全国の市町村のワースト一位になったり、三菱重工香焼工場の大島造船所への売却話が持ち上がり長崎における基幹産業の脆弱さが改めて浮き彫りになったりするなど、決してポジティブな状況ばかりではありません。

一部上場企業が一社も無い現状を含め長崎の産業界においては、雇用の確保や魅力ある新たな産業を作り出すための内発型ベンチャーの育成が急務となっています。そのような状況の中、十八銀行とふくおかフィナンシャルグループ（以下、FFG）の経営統合を機に、FFGの寄附講座として、令和元年10月1日、将来の長崎における事業創出の教育拠点として長崎大学FFGアントレプレナーシップセンター（以下、NFEC）が開設されました。

英知の集積地である大学にはベンチャー創出に不可欠な研究シーズが多くあります。FFGとしては、長崎大学と連携することによって、そのシーズを活用した新産業を創出することで、将来にわたり長崎県経済の発展に貢献する地域金融機関本来の役割を果たしていく所存です。

## 長崎大学FFGアントレプレナー シップセンターについて

「アントレプレナーシップ」とは、事業創造や製品開発などに向けた高い創造意欲を持ち、積極的にリスクをとって挑戦していく姿勢、マイノリティなどを指す「起業家精神」を意味します。

弊センターの主なミッションは、先進的なイノベーション（付加価値の創造）教育・研究の機会を提供する「教育プログラム」を実践することにより、アントレプレナー人材を育成することと、大学が持つ研究シーズの事業化や商業化へ向けた「インキュベーションプログラム」の提供による「大学発ベンチャー（※）の創出」です。具体的な活動内容・特色については次の5つとなります。

①長崎大学全ての学部生・大学院生を対象として、体系的なアントレプレナーシップ教育プログラムを実施することにより、先進的な教育の機会を提供。

②大学における研究開発の成果である技術・知財の事業化・実用化を促進し、ベンチャー創出を支援するためのインキュベーションプログラムを実施。

③アントレプレナーシップ・イノベーションに関する研究およびそれらの教育手法に関する研究の実施。

④アントレプレナーシップやベンチャー創出に関心を持つ長崎県内の他大学・大学院生、高専生、社会人に対して、教育プログラムやインキュベーションプログラムへの参加機会を提供。

⑤アントレプレナーシップ、ベンチャー創出に関心を持つ地場企業、地方公共団体、他大学等に対する情報発信ならびに交流・連携の機会を提供。

(※)大学発ベンチャーとは大学の教官、学生、または公的試験研究所の研究成果を技術シーズとして事業化・創業を行う事業主体のこと。

## ■FFGアントレプレナーシップセンターの概要

|       |                                                                                                                                                                   |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名 称   | 国立大学法人長崎大学 研究開発推進機構<br>FFGアントレプレナーシップセンター(NFEC)                                                                                                                   |
| 形 式   | (株)ふくおかフィナンシャルグループ寄附講座                                                                                                                                            |
| 実施期間  | 準備期間:2019年10月～2020年3月<br>講座実施:2020年 4月～(教育プログラム開講)                                                                                                                |
| 履修対象者 | 長崎大学全ての学部生および大学院生<br>他大学学部生および大学院生、高専生、社会人は科目履修生として受入れ予定                                                                                                          |
| 体 制   | <p>センター長・教授:山下淳司(FFG(十八銀行)からの出向)</p> <p>教 授:上條由紀子<br/>(FFGと長崎大学のクロスアポイント・弁理士)</p> <p>講 師:数名…学内教員および学外専門家<br/>(学外専門家についてはFFGより推薦)</p> <p>事務スタッフ:岡淑美(十八銀行からの出向)</p> |



センター長・教授 山下淳司

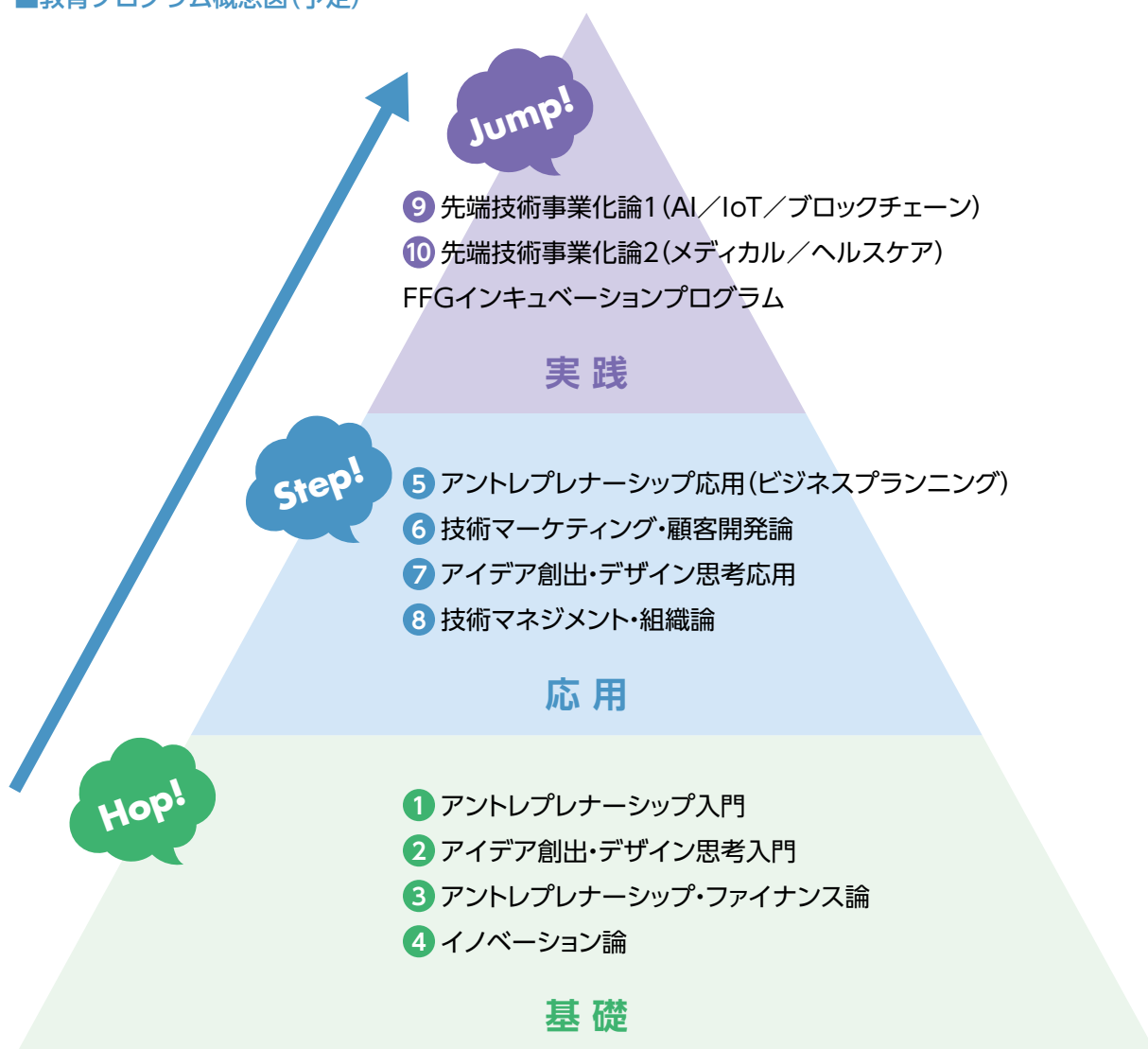
## 教育プログラムについて

これまでの時代は、大手企業に入社すれば一生安泰といわれるなど、良くも悪くも中長期的な予測が可能な時代でした。しかし、テクノロジーの進化による人工知能（AI）やIoT、ロボットなどに関する技術の大幅な進化により、社会やビジネスの複雑性はこれまで以上に増してきており、先行きが不透明となっています。

その意味で、NFECでは、この不確実な時代を乗り切るために、一線級のベンチャー起業家やベンチャーキャピタリストを講師に迎え、社会課題を解決することにより価値を創造していく専門的なアントレプレナーシップ教育を展開してまいります。

具体的には、2020年4月から、学部生や大学院生および社会人に対して、基礎、応用、実践の3段階で10科目（予定）の授業を展開し、体系的に「アントレプレナーシップ論」や「アイデア創出」、「イノベーション論」や「デザイン思考」から「技術マーケティング」に至るまで幅広い分野について、講義やワークショップ

■教育プログラム概念図（予定）



を通して学べるプログラムを提供してまいります。加えて単位や修了証明も付与する予定となっています。

これらの教育プログラムを通して、弊センターでは、次の5つの人材を育成してまいります。

①自立心、向上心を有し、新しい価値創造に挑戦し、課題解決に取り組む意欲を持った人材

②自らコントロールできない不確実な状況に面しても、変化を機会と捉えて活用できる人材

③多面的な視野、視座、視点をもって課題を発見し、解決するアイデアを創造し可視化できる人材

④研究開発の成果である技術を活かして、独創的な新事業コンセプトを創造できる人材

⑤経済の課題に対する解決策を探り、長崎を起点とした新しい価値創造を行って地域経済の発展に貢献できる人材

こういった人材は起業やベンチャービジネスのみならず、一般企業や官公庁にも必要であり、組織内での新規事業展開にかかる企画や運営、後輩や部下に対する指導においても、教育プログラムで学んだことは活かすことができると思います。アントレプレナーシップは将来の日本社会を担う若手人材に求められる必須の要素だといえます。

### インキュベーションプログラムについて

大学では、医歯薬や工学系を中心に様々な研究が行われており、基礎研究を含め、新たな技術シーズが生み出されている反面、ビジネスに活用できていないケースが多くあります。NFECでは、各学部を訪問し、技術シーズについてヒアリングを行い、既存の大学組織と連携しながら特許分析や市場調査などを行ったうえで、活用できる技術シーズや研究者と民間企業とのマッチングを行なうなど、FFGのベンチャーキャピタルである「FFGベンチャービジネスパートナーズ」や十八銀行、親和銀行との連携を活かした事業化支援を

行うことで大学発ベンチャーの創出を目指しています。

インキュベーションプログラムとは、長崎大学の学生や教職員、企業経営者等と研究者とでチームを編成し、研究シーズを評価したうえで、ビジネスプランを構築していくものです。具体的には技術シーズを選定し、教育プログラムと連携しながら、事業化支援（市場調査、特許調査、ビジネスモデル開発の支援等）を実施して、有望な案件については外部資金



長崎大学河野学長による開会挨拶  
(2019年12月12日に長崎大学で開催されたキックオフシンポジウムにて)

## ■FFGインキュベーションプログラム(大学発ベンチャー創出に向けた取組み)



### (※2)STARTプログラム(大学発新産業創出プログラム)

事業プロモーターと大学等の研究者をつなぎ、研究開発と事業育成を支援するJST(科学技術推進機構)のプログラム。

### 研究者にとってのメリット

- STARTプログラムや各種助成金への採択可能性が高まる。
- 事業化を行うベンチャー経営チームの組成が促進される。
- 研究シーズの市場調査・特許調査等を通じて、様々なフィードバックを得られる。

等を活用して投資を検討するものです。インキュベーションプログラムの実施によりスタートアップを支援し、長崎発のベンチャー創出を後押しして、新産業の創出や地域課題の解決を目指していきたいと考えています。

大学発ベンチャーとして有名なユグレナ(東京大学)やサイバーダイナ(筑波大学)等、大学の研究成果を基にした大学発ベンチャーの市場価値はここ数年大幅に上昇していますが、大学発ベンチャーから複数の上場企業が



FFG柴戸社長による挨拶(キックオフシンポジウムにて)



看板を掲げる河野学長(左)と柴戸社長(キックオフシンポジウムにて)

生まれ、その成功したベンチャー経営者が次世代のベンチャーを支援する好循環が生まれている事例もあります。このインキュベーションプログラムを通して、長崎から将来上場できるようにベンチャー企業を誕生させることができれば、長崎にこの好循環を構築することができ、大学はもちろん地域に資金還元ができるようになると思います。

## さいごに

長崎は、その風土や地域性により、江戸時代に唯一海外との交易の窓口であった「出島」があったこともあり、新しい思想、異なる文化の受け入れ、新しい事業や文化を創出し、外部と交流し新しいものを産み出すイノベーションを起こすポテンシャルがある地です。

そういったストーリー性があるからか、今、地元自治体や投資家、東京に本社を置く大手企業などが長崎に注目しています。

「出島」というキーワードがある長崎は特別な街だといえます。そこに集うそれぞれがヒト・モノ・カネによる手厚い支援により、人材育成や事業化への成長を促していく地域エコシステム(生態系)の構築が重要となります。

長崎でイノベーションを興し、アントレプレナーシップを育み、ベンチャー企業を創出する舞台は整いつつあります。NFE Cでは、それを行うプレイヤーを発掘して育てながら、エコシステムの構築にも注力し、長崎県の経済浮揚に貢献したいと考えています。

### 国立大学法人長崎大学 研究開発推進機構 FFGアントレプレナーシップセンター

- 住所  
〒852-8521  
長崎市文教町1-14  
文教キャンパス教育学部棟607号
- 電話  
095-800-4121
- E-mail  
ffgentre@ml.nagasaki-u.ac.jp
- 担当  
山下・上條・岡

Topics of the month

## <長崎創生プロジェクト認定> 第2回 長崎MICEスクールを開催

1月17日(金)、長崎市の長崎商工会館にて第2回長崎MICEスクールが開催されました。  
(第1回開催の様子は弊誌2019年12月号に掲載)

本

スクールは2021年  
11月開業予定の長崎市

のMICE施設「出島メッセ長崎」を舞台にFFGと長崎市、経済団体が連携し、地域の稼ぐ力を高め、地域が活性化することを目的として、MICEビジネスを学ぶ場を提供させていただきます。今回が全10回のうちの2回目の講義となります。

長崎市内の事業者50社55名が参加され、第1部ではDMO六本木事務局長で森ビル株式会社の坂本和也氏による講演、第2部では株式会社コングレの釘田明子氏のコーディネートによるワークショップが行われました。

坂本氏は「MICE誘致によ



▲第1部の講演会の様子



▲稲積FFG MICEリーダーによる開催挨拶



▲コングレ釘田氏によるワークショップの様子



▲森ビル坂本氏による講演の様子

る地域活性化、DMO六本木の取り組み」をテーマに海外のプランナーが企業の報奨・研修旅行や学会、国際会議を企画し、開催地を選定する際にリクエストすることなどを語っていただき、実際にDMO六本木が取り組んだ活動や成功事例が紹介されました。

第2部のワークショップでは「チームビルディングでMICEにおける長崎ブランドを考える」と題して異文化マネジメント歴40年超の釘田氏がMICE成功のヒントとして地域全体で歓迎する仕組み作りや地域の新しい魅力の開発、デステイネーションマーケティングに取り組む必要があることを語っていただきました。

さらに参加者による異業種同士のグループワークも行わ

れ、長崎の強みと弱みなどが活発に議論されました。長崎はMICE都市としてはこれからであり、長崎がこれからのような取り組みをやっていくかなければならないかグループごとに意見やアイデアが出され、最後にグループ代表による発表が行われました。

発表意見には「長崎の今あるものを活かしながら、外からの目線で再発見していくことが必要である」、「食や歴史などの強みを知って、きちんと伝えていくことが重要である」などがあり、あらためて長崎の良さと課題を参加者で認識を共有し、活発なグループワークとなりました。

全体を通して、参加者からは、「今後の自社のビジネス展開のヒントを学ぶことができた」、「様々な事業者の方とMICE

を軸としたコミュニケーションが取れることは貴重な経験である」、「個人の観光客とMICEを目的とした訪日客のニーズの違いなどが理解できた」などのご感想をいただきました。

最後に長崎市MICE推進室の松島係長より、旧香港上海銀行長崎支店記念館のユニークベニュー(※)としての活用実証についての説明があり、同建物を活用したフィールドワークの案内が行われました。

(※)歴史的建造物や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと

次回、長崎MICEスクールは2020年3月を予定しております。



▲2021年11月に開業予定の出島メッセ完成予想図



▲第2部のワークショップの様子

Topics of the month

# 「第1回 福岡銀行杯 古賀市学童軟式野球大会」を開催

昨年11月17日(日)、24日(日)の2日間、  
地域貢献活動の一環として、福岡銀行野球部主催による  
少年野球大会を福岡県古賀市のFFG古賀グラウンドほかで開催いたしました。

こ

の野球部主催のイベントは、過去6年間にわたって、「少年野球教室」として開催していましたが、今回からはより多くのチームにご参加していただけるよう、「少年野球大会」として開催し、全14チーム、約300名の小学生に参加していただきました。

大会当日は古賀市の田辺市長による開会のご挨拶で幕が開け試合では子どもたちの白熱した試合が繰り広げられました。また閉会式でメダルを受け取った子どもたちの笑顔がとても印象的でした。

FFGは、今後も地域貢献に資する取り組みを積極的に続けてまいります。



▲メダルを授与された上位チームと福岡銀行野球部部員で記念撮影



▲古賀市田辺市長による開会挨拶



▲参加14チームによる開会式



▲閉会式でのメダル授与の様子

参加  
無料

# 2020年版九州経済白書説明会

## 「ベンチャー企業の成長による地域活性化 ～ビジネス創出と地域課題の解決に向けて～」のご案内

九州・沖縄・山口地域の経済社会問題を調査・分析する「九州経済白書」は、今年で53回目の発行を迎えました。今回のテーマは「ベンチャー企業の成長による地域活性化～ビジネス創出と地域課題の解決に向けて～」です。

将来に対する危機感が高まる一方で、近年は新技術の急速な発達により、Society5.0などに代表される新たな社会の実現と、それにとまなうビジネスチャンスが拡大しています。こうした新たな技術革新やトレンド・産業界のニーズに柔軟に対応できる、新鋭のベンチャー企業への注目が高まり、地域活性化の担い手となることが期待されています。九州地域のベンチャー企業へのアンケート調査の分析や、企業事例・トレンド紹介、金融機関や行政、産業界といった支援サイドの実態や課題などを明らかにすることで、今後のベンチャー企業の成長や支援のあり方について方策を示します。

そこで、ふくおかフィナンシャルグループ(以下、FFG)では、九州経済調査協会(以下、九経調)等との共催により、白書をもとに下記の通り説明会を開催いたします。要務ご多忙の折とは存じますが、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

### ◆開催場所及び日程等

| 会場   | 福岡会場                                     | 北九州会場                                     | 長崎会場                                      | 佐世保会場                                     |
|------|------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 開催日時 | 2020年2月5日(水)<br>15:00～16:30<br>(開場14:30) | 2020年2月27日(木)<br>13:30～15:00<br>(開場13:00) | 2020年2月10日(月)<br>13:30～15:00<br>(開場13:00) | 2020年2月20日(木)<br>13:30～15:00<br>(開場13:00) |
| 講師   | 九経調 調査研究部<br>次長 藤井 学 氏                   | 九経調 調査研究部<br>次長 藤井 学 氏                    | 九経調 調査研究部<br>部長 片山 礼二郎 氏                  | 九経調 調査研究部<br>部長 片山 礼二郎 氏                  |
| 開催場所 | FFG福岡ビル<br>(福岡銀行本館地下)<br><b>開催済</b>      | FFG北九州本社ビル<br>6階講堂                        | 十八銀行本店<br>10階会議室<br><b>開催済</b>            | FFG佐世保ビル<br>4階セミナールーム                     |
| 定員   | 300名                                     | 130名                                      | 200名                                      | 120名                                      |
| 共催   | FFG・九経調<br>福岡商工会議所                       | FFG・九経調・西日本工業倶楽部<br>北九州商工会議所              | FFG・十八銀行<br>長崎経済研究所・九経調                   | FFG・親和銀行・九経調<br>佐世保商工会議所                  |
| 後援   | FFGビジネスコンサルティング                          |                                           |                                           |                                           |

\*「九州経済白書」は特別価格**2,500円**(通常価格3,300円)(税込)で、九経調が会場にて販売します。

※定員になり次第、締め切らせていただきます。  
※各会場とも駐車場の用意はございませんので、  
お車でのご来場はご遠慮下さい。

九州経済調査協会のウェブサイト  
(<http://www.kerc.or.jp/seminar/2020/01/25312.html>)から  
お申し込みください。  
お問い合わせ先 (公財)九州経済調査協会事業開発部・BIZCOLI  
担当:牟田・平田 TEL:092-721-4909

# 地域とつながるFFG連携プロジェクト

FFGの幅広いネットワークを活かした地方創生の具体的な実例をご紹介します



## 宗像市

MUNAKATA  
CITY

宗像市とふくおかフィナンシャルグループ（以下、「FFG」という）及び福岡銀行は、2017年12月に「地域活性化に向けた連携と協力に関する協定書」を締結し、宗像市の地方創生を実現するため、FFG及び福岡銀行が持つ幅広い顧客網、金融や経営面に関するノウハウ・ツールなど、両者の資源や能力などを相互に有効活用し、地域活性化に向け取り組んでいます。

その具体的な取り組みとして弊誌2020年1月号のクラウドファンディングを活用した事業に続き、2019年10月1日に道の駅むなかたで開催した「みあれ祭のパブリックビューイベント」をご紹介します。

みあれ祭とは、世界遺産である「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群“で知られる宗像大社が毎年10月1日から3日にかけて斎行する

秋の大祭（田島放生会）で最初に行われる祭礼で、沖ノ島にある沖津宮と大島にある中津宮のご神体を、年に1度本土にある辺津宮にお迎えし、三女神の新たな力が生まれるお祭りです。海上神幸では、神璽（しんじ神のみたま）を乗せた御座船に、漁船およそ数百隻がお供する壮大な海上パレードが行われます。

みあれ祭の見所である海上神幸は、海上での神事であるため近くで見ることが難しく、そのためFFGでは、道の駅むなかたに大型のパブリックビューイングを設置し、ドローンを用いた生中継を企画・実行支援しました。開催当日は、子どもからお年寄りまで多くの方がパブリックビューイング（PV）を観覧し、迫力ある海上神幸に見入っていました。

FFGではこれからも地方創生に資する取り組みを積極的に続けてまいります。

▼こちらのQRコードで  
動画をご覧いただけます



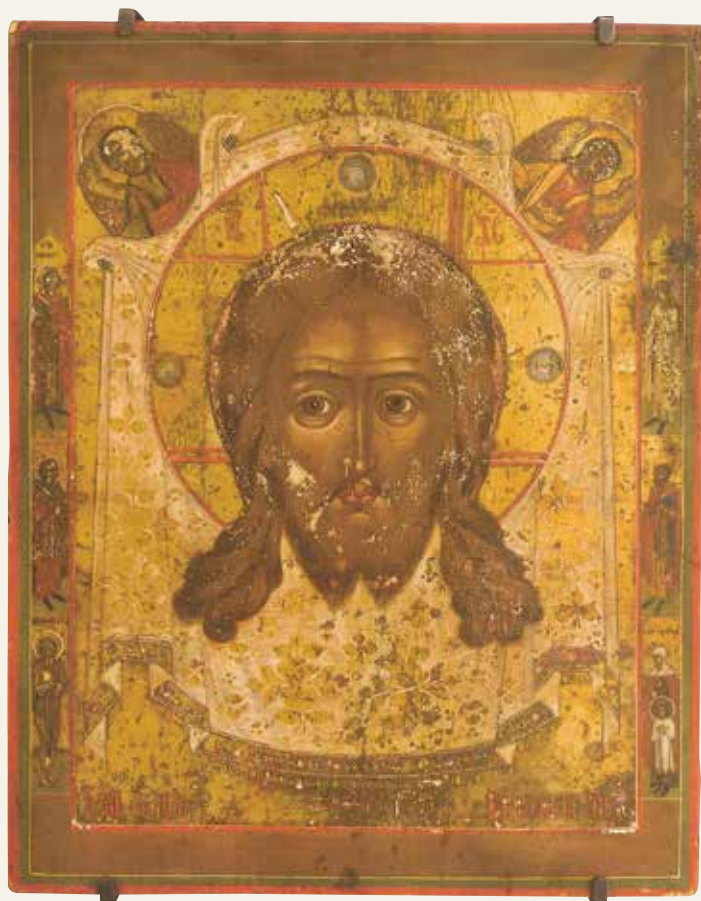
▲道の駅むなかたでのPVの様子



▲動画中の一場面



▲みあれ祭の様子（井上正文氏撮影）



▲<ロシアアイコン>ニエルカトヴォールヌイの救世主像 作者不詳(モスクワ派)

# 親和 アート ギャラリー

Shinwa  
Art Gallery

学芸員  
便り

当館で所蔵する作品を紹介します

私が解説します



親和アートギャラリー 学芸員 藤松綾子さん

親和銀行コレクションを代表するものにロシアアイコンがあります。アイコンとはギリシア語のエイコン(像・形)に由来し、キリスト教美術では聖像・聖像画と訳されます。ロシア正教会で信仰の対象として受け継がれてきたロシアアイコンは、中世に成立した原型を踏襲してきたため、初期のキリスト教絵画を現在に伝えるものとされています。

「ニエルカトヴォールヌイの救世主像」は、エデッサのアブガル王の望みに応えたイエスが、自らの顔を布に押し当てて刻印したとされる言い伝えを元にしたアイコンです。聖顔布と呼ばれるこの布は多くの奇跡を起こしたとされています。ニエルカトヴォールヌイはロシア語で人の手によらないという意味です。木の板にテンペラで描かれており、上部左右の天使はイエスの顔が刻印された布を掲げています。

当館では、16世紀以降に制作されたロシアアイコン21点を常設展示しています。日本国内ではロシアアイコンを常設展示している施設は少なく、コレクションは大変貴重なものと言えます。



## 親和アートギャラリー 鑑賞無料

開館日時/10:00~16:00(入館は15:30まで)

休館日/日・月・祝日(土曜日が祝日の場合は開館)、年末年始12/31~1/3

住所/長崎県佐世保市島瀬町4-24 親和銀行島瀬ビル1F  
島瀬バス停から徒歩3分、JR佐世保駅から徒歩約20分

TEL/0956-23-4856



Ho Chi Minh Representative Office

## ホーチミン海外進出最前線



▲店舗入口に立つ村上ディレクター

海外に進出されている福岡銀行住吉支店のお取引先企業グループのご紹介です。

## 株式会社綱屋

TSUNAYA VIETNAM Co., Ltd.

### PROFILE

現地法人：TSUNAYA VIETNAM Co., Ltd.  
住 所：19-21 Dong Khoi Street, Ben Nghe Ward, District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam

親 会 社：株式会社綱屋  
住 所：福岡県福岡市博多区美野島 2-5-2 綱屋ビル 5F

### はじめに

株式会社綱屋（以下、綱屋グループ）は、「焼肉ヌルボン」を中心として、福岡12店舗、熊本1店舗、佐賀1店舗を展開しており、ここベトナムにも2019年5月にホーチミン店をオープンしました。お店の名前は「IL CORDA（イルコルダ）」。イタリア語で「綱」を意味します。

高度経済成長が著しいベトナムの中でも、最も人口の多い商業都市ホーチミンで、有名なステーキ店の一つとなり注目を集めています。

今回は、綱屋グループの海外現地法人「TSUNAYA VIETNAM」を訪問し、ディレクターの村上様にお話を伺いました。

### 1 ベトナム進出の経緯

綱屋グループは、今回のベトナム



店が海外での初めての出店です。

ベトナム出店を決めるまでに、ニューヨーク、シンガポール、香港、台湾など数カ国の視察を繰り返し、台湾など数カ国の視察を繰り返しました。そして、ベトナムのホーチミンを訪れ文化、気候、人柄、経済に触れた時に、会長を中心とした役員全員が、ここに出店したいとの思いで一致しました。ホーチミンであれば、綱屋グループの想い「まごころこめてのおもてなし」を実現できるのでは、と全員が感じました。

## 2 出店から現在まで

出店に辿り着くまでは、ベトナム特有の法律、習慣があり一筋縄では物事が進みませんでした。特に出店用地の選定は3度契約が流れ、4度目の正直で現在の立地に出店することができました。気がつけば出店を決意してから1年半

もの月日が経過していました。

出店までには様々なハードルがありました。振り返ってみると、苦労した(苦しんだ)という感覚はありませんでした。それは、出店までに力を貸していただいた皆さまのご協力があったからこそだと思っています。この多大なご恩に報いるためにも、九州・福岡で培ってきた「美味しいものを食べてもらう」技術を、このホーチミンでも磨き、多くの方々に体験していただけるお店にしたいです。

## 3 今後の展開

出店して約半年が経ち、来店されるお客様に一定の傾向が見られるようになってきました。内訳は、日本40%、アジア(日本以外)30%、欧米15%、ベトナム15%と、日本・アジア(特にシンガポール、香港、台湾が目立つ)にまだまだ偏り

が見られます。今後は、15%に留まっている欧米、ベトナムの客層を拡大させるアプローチを考えていきたいです。ベトナムに出店している限りは、地元の人に日本人が創り出す美味しさを知ってもらいたい、その美味しさを広めていきたい、そして「ホーチミンで1番のレストランになりたい」。その思いを胸に今日もベトナム人社員たちと共にチャレンジし続けています。

## 最後に

当然のことながら、海外では日本の常識が通用しません。世界からみると日本の常識の方が疑わしい事だと思っています。そんな環境で戦っていくためには、その土地にいかに対応し、また現地の好みに合わせて変化していくかが大事です。ただ、そんな中にも変わらない思いを持ってチャレンジして

いく綱屋グループの熱意を感じました。今後、益々ご活躍され、ホーチミン市を盛り上げていただけるよう願っております。

ホーチミン駐在員事務所  
佐々木了悟



▲日本人デザイナーが手掛けたリッチな店内



▲現地で好評な骨付きのWAGYUトマホークステーキ

## 伝統産業から文化ビジネスへ

今回は、京都における

伝統産業のグローバル化とイノベーションの

取り組みをご紹介します。

伝統産業は地域経済の担い手であったが、

バブル崩壊後の1990年代をピークに衰退傾

向が続いている。京都には幅広い分野の伝統産

業が集積しているが、文化庁の京都移転を前に、

文化を起点として新たな付加価値を産みだし経

済の好循環につなげることが課題となっている。

### 文化ビジネスとは

同志社ビジネススクールでは2007年に

「伝統産業グローバル革新塾」(以下、革新塾)を

立ち上げ伝統産業の若手を中心に実践的なビ

ジネス教育が行われてきたが、そのコンセプトは

「伝統産業から文化ビジネスへ」であった。革新

塾を立ち上げた村山裕三教授によると「文化ビ

ジネス」とは「伝統文化の芯となるところを見出

し、現代に通ずるビジネスとして仕立て直す」

ことだ。もちろん、現代に通ずるためにはビジネ

スはグローバルでありイノベイティブ(革新的)で

なければならない。



▲写真1 パリ「京都の赤展」の展示「糸そうめん」(写真提供 Marble.co)

## 伝統産業のグローバル化

伝統産業を文化ビジネスとしてグローバル化するためには、伝統産業のどの要素が海外市場で通用するかを見極めることが大切だ。革新塾では2008年の「サンフランシスコ国際ギフトフェア」へ手描友禅のタンブラーやマグカップなど革新塾で開発した製品を出展したが結果は思わしくなかった。それは、展示にコンセプトがなく製品を並べただけの物産展に終わったからだ。そこで、2009年には西陣織の赤、京友禅の赤、清水焼の赤など京都の赤をテーマにした「京都の赤展」をパリで開催した。そのなかで、パリの人々に鮮烈な印象を与えたのは様々な赤に染められた西陣織の縦糸を天井からつるした「糸そうめん」の展示で、展示品の一部が切り取られていた。おそらく、「西陣織の糸に魅せ

られたプロの仕業であろう」ということだ。

西陣織でグローバル化へ舵を切ったのが(株)細尾である。(株)細尾は元禄元年に創業した西陣織のメーカーで、11代目当主の細尾真生氏は商社マンとしてミラノで勤務した経験があり、海外から西陣をみる視点をもっていた。(株)細尾も海外での出展のスタートは順調とはいえなかったが、海外でも通用する「伝統文化の芯」となったのは、細い金箔や銀箔を織り込む西陣織の技術であった。2008年にパリで開催された「感性ジャパン デザイン エキシビション」に出品した帯がニューヨークの巡回展で世界的な建築家ピーター・マリノ氏の目にとまり 크리스チャン・ディオールの店舗用インテリアに使われることになった。ピーター・マリノ氏が着目したのは西陣織の帯の意匠ではなく西陣織の素材としての魅力だった。その後もシャネル、ルイ・ヴィトンなど



▲写真2 京都の伝統工芸とのコラボレーションによる「響筒」(写真提供:パナソニック株式会社)

からインテリア用途での受注が広がり、さらにインテリアに留まらずファッションやアートなどの世界にも及んでいく。

もう一つグローバル化に必要なのが織機のイノベーションである。西陣織の帯の幅は32センチであるが、インテリアで使うためには狭すぎる。このため、世界標準の150センチ幅で織れる織機が開発された。

## 伝統産業のイノベーション

伝統産業といっても生まれた時は先端産業で、その技術も革新されてきた。西陣織の歴史は平安時代まで遡るが、明治初期には職人をフランスのリヨンに派遣して紋紙（紋の模様）に従って穴をあけたパンチカード（を用いて模様を織り出すジャカード織機が導入された。これにより、

多彩な製品を安定的に供給できるようになり、その後、紋紙は電子データ化され西陣独自のフォーマットとして定着していく。

イノベーションとは、日本では技術革新と理解されているが、もともと意味するところは技術革新に留まらず新しい組み合わせ「新結合」により新たな価値を生み出すことである。

エレクトロニクスと京都の伝統工芸の技が結合すれば何が起ころうか。パナソニック（株）では2015年から京都の伝統産業とのオープンイノベーション「Kyoto KADEN Lab.（京都家電ラボ）」の取り組みが行われている。京都の伝統工芸の後継者によるクリエイティブユニット「GO ON<sup>ゴオン</sup>」との共同開発により生まれたのが「人の記憶や五感に響く未来の家電」で、世界最大規模の家具見本市「ミラノサローネ2017」に出展し「ベストストーリーテリング

賞」を受賞、そのなかの1つ「響筒<sup>きょうつつ</sup>」は商品化されることとなった。「響筒」は明治8年創業の手作り茶筒の老舗「開化堂」の茶筒を使ったモバイルスピーカーで、テレビの情報番組カンパリア宮殿でも紹介された。

「GO ON」は伝統工芸を斜陽産業から成長産業に生まれ変わらせることを目的として（株）細尾の12代目細尾真孝氏や開化堂6代目の八木隆裕氏など京都の伝統工芸の後継者6名で結成された。「GO ON」とは先人から受け継いだ技と素材への「ご恩」と未来へ向かって進んでいく「Going on」にちなんで命名されたという。

こうした伝統産業のグローバル化とイノベーションの取り組みにより「伝統産業から文化ビジネスへ」の動きは広がりをみせている。

（文責 京都総合経済研究所 森秀人）

# 日本全国 県境・地域を越えた 「様々なビジネスニーズ」にお応えします！

このようなビジネスシーンでお困りではありませんか？



## 全国の地銀9行連携 「地域再生・活性化ネットワーク」について

経営基盤・営業エリアが異なる地銀9行が、様々な情報・ネットワークを相互に活用することで、地域経済の再生および活性化を図るために構築した広域連携です。

県境・地域を超えて活躍する（今後検討される）お客さまのビジネスニーズ等に対して、全国の各エリアをカバーする地域金融機関が連携・協力して対応していきます。

- ① 複数の地方銀行による資金供給（シンジケートローン・協調融資等）
- ② 他エリアの地方銀行のネットワーク情報を活用して、M&Aや事業承継における相手方情報をご提供
- ③ ビジネスマッチング業務にかかる他エリアの地方銀行のお取引先等をご紹介します



- 【注意事項】
- 本ネットワークは、協定書を締結した地方銀行9行の連携・協力に基づき運営されています。ご利用にあたり、お客さまのご要望・ニーズなど、必ずしもご期待にそえない場合がありますのでご了承ください。（個別具体的なソリューションのご提供を確約するものではありません。）
  - 本ネットワークのご利用を希望される場合は、お近くの取引銀行窓口までお気軽にご相談ください。（ご相談は無料です、但し、個別具体的なソリューションのご提供にあたっては、各銀行所定の手数料等がかかる場合があります。）

ピアノ演奏を通じて音楽の素晴らしさを届けたい！

九州の星

Star of Kyushu

| 54 |

頑張るあなたを  
応援するコーナーです

## 福岡銀行 高宮支店行員（ピアニスト）



## 徳永 哲也

TOKUNAGA TETSUYA

Age 25

勤務先 福岡銀行 高宮支店  
融資業務



2019イルミネーション点灯式（ふくぎん本店広場）の様子



福岡銀行 高宮支店（前列左2番目から徳永さん、叶支店長）

## ピアニストの銀行員

福岡銀行 高宮支店で融資業務を担当する徳永さん。実はピアニストの顔を持ち、福岡銀行のイベントでピアノコンサートを開くなど活躍している。

徳永さんがピアノを習い始めたのは6歳のとき。小中高とピアノを続けるが、一般企業への就職を考えて音楽大学には進まず、九州大学法学部に進学した。

「大学時代は音大生に混じって、コンクールにも挑戦しました」

音楽での転機は、在学中にミュンヘン国際音楽セミナーを受講したこと。

「音楽の本場ドイツでセミナーを受け、その曲の作られた時代、文化を深く勉強

することができ、曲への理解や思いが深まりました」

福岡銀行に入行後もピアノの練習を続け、1年半後に第41回ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会グランプリ・ブロンズ級銀賞に輝いた。評判を聞きつけた人から、次第に演奏の依頼が舞い込むようになった。

「FFGホールでの演奏や、老人ホームでの訪問演奏など、人前で演奏する機会が増えました。今後は親しみやすい曲のレパートリーも増やしていきたいです」

仕事と両立しながらピアノの練習を重ね、聴く人の心に響く音色を届ける。



ふくおかフィナンシャルグループ

# 地場企業×ベンチャー企業

AIやIoTなど最新テクノロジーを使った  
新事業創出の場



2020年3月24日(火)

12:00-19:30

ホテルニュー長崎 (長崎県長崎市大黒町14番5号 JR長崎駅より徒歩1分)

参加無料

申込要

X-Tech Match upは九州の企業とベンチャー企業を結びつけるマッチングの場を提供します。

豊富なビジネスの経験を持つ企業と新しい技術、テクノロジー、ビジネスアイデアを持つベンチャー企業が協業することで、企業側は新事業進出、業務効率化・改善及び社内課題の改善を目指し、ベンチャー企業は自身のビジネスの飛躍のきっかけをつかみます。

本イベントを通じて、企業とベンチャー企業双方の力で地域の活性化につながることを願っています。

## 基調講演

ハウステンボスの「変なホテル」立役者が語る  
～人が幸せになるためのテクノロジー～

株式会社hapi-robo st 代表取締役社長  
ハウステンボス株式会社 取締役CTO

富田 直美氏



1948年生まれ。静岡県出身、国際商科大学卒。  
外資系IT企業の日本法人社長など11社の経営に携わる。

(財)日本総合研究所理事、社会開発研究センター理事、  
アジア太平洋地域ラジコンカー協会初代会長等を歴任。

考える塾である“富田考力塾”を全国展開。

2016年 hapi-robo st を立ち上げ、ハウステンボス取締役CTOとしてエイチ・アイ・エスグループの  
ロボット事業全般を統括。ラジコンはプロレベル。ドローンによる空撮もプロとして活躍。

株式会社hapi-robo st 代表取締役社長、ハウステンボス株式会社 取締役 CTOとして H.I.S.グループの  
ロボット事業全般を統括。

## パネル ディスカッション

長崎におけるスタートアップ支援について

(仮)長崎市長 田上 富久氏  
GEUDA(ギウダ) COO 熊崎 隆人氏  
Startup GoGo 中原 健氏  
長崎大学FFGアントレプレナーシップセンター センター長・教授 山下 淳司  
FFGベンチャービジネスパートナーズ 代表取締役社長 福田 知

詳細については調整中です。決まり次第WEBにてお知らせいたします。

## タイムテーブル

| メインステージ                            | 商談ブース             |
|------------------------------------|-------------------|
| 13:00-13:20 開会挨拶                   | 12:00-12:50 予約商談  |
| 13:20-14:10 基調講演                   |                   |
| 14:20-15:30 パネルディスカッション            |                   |
| 15:45-18:15 ベンチャー企業による<br>事業紹介プレゼン | 16:10-18:20 フリー商談 |
| 18:30-19:30 交流会                    |                   |

※予約商談は1席20分、定員になり次第受付を終了いたします。その際はフリー商談にお越しください。

※スケジュールは予告なく変更になる場合がございます。

主催：ふくおかフィナンシャルグループ 福岡銀行 親和銀行 十八銀行

お申し込み・詳細はWEBへ

<http://xtech-matchup.biz>



お問い合わせ

[info@ffg-venture.co.jp](mailto:info@ffg-venture.co.jp)

事務局：FFGベンチャービジネスパートナーズ  
(イベント内容/ベンチャー企業に関するお問い合わせ)

FFGビジネスコンサルティング  
(商談に関するお問い合わせ)

担当 大原

担当 三丸

092-723-2139  
(平日9-17時 銀行休業日除く)

092-723-2244  
(平日9-17時 銀行休業日除く)